

平成30年度第1回江田島市総合教育会議 議事録

平成30年11月13日(火)、江田島市役所4階403会議室において、平成30年度第1回江田島市総合教育会議を開催しました。

1 開会及び閉会に関する事項

開会 午前10時00分

閉会 午前11時45分

2 出席者

(1) 構成員

市長	明 岳 周 作
教育委員会教育長	御堂岡 健
教育委員会教育長職務代理者	三 島 雅 司
教育委員会委員	樋 上 美由紀
教育委員会委員	柳 川 政 憲
教育委員会委員	今 井 絵里子

(2) 関係者(教育委員会事務局)

教育次長	小 栗 賢
学校教育課長	畠 藤 邦 子
生涯学習課長兼江田島図書館長	
兼能美図書館長	問 可 健 治
学校給食共同調理場総括場長	福 岡 洋
大柿自然環境体験学習交流館長	西 原 直 久

(3) 総合教育会議事務局

総務部長	仁 城 靖 雄
総務課長	矢 野 圭 一
総務課 総務情報係 主任主事	花 野 泰 司

3 傍聴人

なし

4 議事日程

- (1) 議事録に署名する者の決定について
- (2) 協議第1号 江田島市内小中学生の学力及び体力について
- (3) 協議第2号 大柿高等学校に対する取組について
- (4) 協議第3号 平成31年度新規・拡充事業について
- (5) その他

5 議事の概要

○ 矢野総務課長

定刻でございますので、ただ今から、「平成30年度第1回江田島市総合教育会議」を開催いたします。

現在、出席されている構成員は、6名でございます。

本日の議事日程は、「資料1」のとおりでございます。

なお、本日の会議には、構成員の皆様にご出席いただいたほか、教育委員会事務局職員5名、総合教育会議事務局職員3名が出席しております。出席者の紹介は、お手元の「資料2」に代えさせていただきます。

それでは、開会のあいさつを、明岳市長が行います。明岳市長、よろしくお願いいたします。

○ 明岳市長

皆さん、おはようございます。

本日、委員の皆さんには、お忙しいところ、御参集いただき、本当にありがとうございます。

この会議は、皆さん方も御承知のとおり市長と教育委員会の皆さんとで十分な意思疎通を図っていくということで、地域の教育をどうしていくか、子供たちにとってより良いものにしていくために会議を開くものでございますので、遠慮なく御意見賜りたいと思います。

本日の会議では、次第にもありますけれども、江田島市内小中学生の学力及び体力について、それから、大柵高等学校に対する取組について、それから平成31年度の新規・拡充事業について御説明をし、協議をさせていただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○ 矢野総務課長

ありがとうございました。

議事進行は、明岳市長にお願いしたいと思います。明岳市長、よろしくお願いいたします。

○ 明岳市長

それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。

この会議は、基本的に公開となっておりますけれども、傍聴の申込みがないということでございました。

まず、次第の「(1) 議事録に署名する者の決定」でございます。

江田島市総合教育会議運営規程第14条第2項の規定によりまして、私とともに議事録に署名を頂く方を決定させていただきたいと思います。この件につきましては、平成27年7月21日に開催されました平成27年度第1回江田島市総合教育会議におきまして、申合せをいただいております。「資料2」の名簿の構成員の下の段からの順番ということにさせていただきまして、今回は、今井教育委員会委員にお願いをしたいと思います。

なお、江田島市総合教育会議運営規程第14条第1項の規定によりまして、議事録を作成する者は、総務課 花野主任主事に指名をいたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。まず、協議第1号の「江田島市内の小中学生の学力及び体力について」でございます。

内容につきまして、御堂岡教育委員会教育長に説明を求めます。よろしくお願いいたします。

○ 御堂岡教育委員会教育長

大まかに言いますと、学力、体力ともにおおむね力がついてきていると思います。
詳しくは、資料がございますので、畠藤課長から説明させていただきたいと思います。

○ 明岳市長

それでは畠藤課長、よろしく申し上げます。

○ 畠藤学校教育課長

それでは失礼いたします。

資料の別冊、資料4を御覧ください。資料4の1ページ「江田島市内の小中学生の学力について」説明いたします。

まず、学力向上のための取組内容ということで、今、教育委員会で行っていることを説明させていただきます。

1点目は、「学力の定着・向上のための授業改善」でございます。これは、教職員個々の授業力の向上もねらっています。

学力調査の結果の分析などを通して、授業改善を行い、学力の定着・向上を図っています。

4月に小学校第6学年、中学校第3学年を対象に実施いたします「全国学力・学習状況調査」。そして、今年度は実施がされていない休止状態の、6月に小学校第5学年、中学校第2学年を対象に実施いたします広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果を基に、改善計画を策定し、それを基に授業改善を図っています。

2点目といたしましては、「江田島市教育委員会経営計画に基づき、重点的な取組の実施」でございます。

江田島市教育委員会経営計画の中期経営目標を「児童生徒の学力の向上を図る。」とし、短期経営目標を「習得した知識・技能を活用する力を向上させる。」として、取組を進めています。

具体的な取組・方策としましては、学びの変革推進協議会を活用しまして、主体的な学びを促す授業改善について指導助言を行っております。各校で学力調査を実施・活用させ、学力の定着・課題の克服が図られるよう指導助言を行っています。そして、市の事業でもございます学びの変革推進事業、ICT活用事業、理科教育推進事業を実施しています。ICTと理科は市町の挑戦加配といいまして、県費で1名教職員を加えた数で配置してもらい、指導をしています。また、外国語指導事業を実施しています。そして、学力向上に関する先進校への視察などの取組を行っています。

そして、3点目は、「市教育委員会主催研修の実施」です。こちらは、主任の育成ということでございます。教務主任を対象とした研修、研究主任及び学びの変革推進担当教員を対象とした「学びの変革」推進協議会、小学校の外国語活動担当教員や高学年担任や各中学校の教員1名を対象とした小学校外国語パワーアップ研修等を市教委主催研修として実施しています。

これらの取組を通して、児童生徒の学力向上をねらうというものでございますが、結果としましては、県や全国平均よりは上の水準にございます。

今後、学力向上のため更に取り組むこととして、学校に指導している内容としましては、3点ございます。

1点目は、書くこと・聞くことの指導の徹底ということです。これらが重要であると考えています。書くことというのは、条件を付けて書く場を意図的に設定するということや、聞くことについては、聞くことのよさを実感させる指導を行うということです。

2点目は、家庭学習の徹底ということです。家庭学習の量と質を見直し、家庭学習への意欲を持たせる工夫をします。

3点目は、組織的に取り組むということです。学校としての課題、重点を明確にし、個々の児童生徒に対する手立てを明らかにすることが重要です。

全国学力・学習状況調査の結果で、全国の平均値と比べますと、江田島市の平均値は全国よりも上にありますが、正答率が40パーセントに満たなかった児童生徒もおります。小学校6年生の国語Aでは5.8パーセント、算数Aでは13.8パーセント、理科では10.9パーセント、中学校3年生の国語Aでは1.5パーセント、数学Aでは14.6パーセント、理科では5.4パーセント。これらの者が正答率40パーセントに満たなかった児童生徒の割合でございます。これらの児童生徒に対しては、個別に指導を行い、改善を図ってまいりたいと考えています。

続いて、資料4の2ページを御覧ください。「平成29年度広島県児童生徒の体力・運動能力調査結果（江田島市分）」でございます。

広島県が実施しています児童生徒の体力・運動能力調査の結果です。Ⅱの「調査結果のまとめ」を御覧ください。23市町別の体力合計点の平均値を比較した表でございます。昨年度の結果ですが、小学校5年生男子が3位、小学校5年生女子が2位、中学校2年生男子が1位、中学校2年生女子が9位となっています。

小学校体育の授業で、サーキットトレーニングを実施した。業間体育の時間を利用するなどして持久走等に取り組んだ。ということなど、江田島市一丸となった取組が児童生徒の体力向上につながったのではないかと考えています。

続いて、3ページを御覧ください。こちらは、平成25年度からの5年間の推移となっています。年々向上しているということが見て取れるのではないかと思います。

続いて、4ページを御覧ください。4ページから7ページまでの資料は、小学校5年男子の、体力合計点や、テストの項目について、どれぐらい伸びたかということを表にしております。

体力合計点で見えますと、平成23年度は、体力合計点は53.65点で県内23市町中22位という結果でした。平成29年度は60.12点で県内3位になっているということです。握力、上体起こしなど、それぞれの項目において向上が見られているのが分かります。続いて5ページは小学校5年生女子、そして次のページは中学校2年生男子、7ページは中学校2年生女子となっています。

平成30年度の調査結果については、昨日公表されたということで、現在分析をしているところでございます。

今後も引き続き、体力向上についての取組を進めてまいります。

説明につきましては以上です。

- 明岳市長
 ありがとうございました。
 ただ今の説明につきまして、質問、御意見等ございましたらお願いいたします。
- 三島教育委員会教育長職務代理者
 全国学力・学習状況調査の結果について、点数が低い年は全体的に問題が難しかったとか、原因はありますか。
- 御堂岡教育委員会教育長
 基本的に毎年中身が変わるんですけど、多少難しい年があります。簡単な年もあるということで、全国の振れ幅に対してどれくらいなのかという理解をしていただいたほうがいいと思います。
- 三島教育委員会教育長職務代理者
 学力の向上に関しての検証はできていますか。
- 畠藤学校教育課長
 ただ今の質問については広島県が、小学校5年生と中学校2年生に対して、「基礎・基本」定着状況調査を行っておりますので、それに向けた取組を各学校で行っております。そこで課題がみられたところについては、改善計画を立て、そして次の年度に全国学力・学習状況調査が小学校6年生と、中学校3年生にございますので、こういった学力調査も活用しながら、学力定着を図るようにしています。
- 三島教育委員会教育長職務代理者
 家庭学習に力を入れていると聞いたが、具体的にどのようなことをしていますか。
 保護者への意識付けに関して学校から働き掛けを行っていれば、具体的に教えていただければと思います。
- 御堂岡教育委員会教育長
 学力をつけるのは、学校の授業だけでつければ一番いいのかもしれませんが、社会に出たり高校に行ったりしたら、最終的には自分一人でもできる力がいると思うのです。そのために家庭学習とか宿題というのが非常に重要になってきていると思います。
 秋田県の場合は、社会全体が、家庭学習をするものだとか、宿題はやって来るものだ。そういう雰囲気になっているところだそうです。また、家庭学習ノートというような、家庭学習についての綿密な独自のノートを小さい頃からやらせているということで、自主学習する癖をつけているというようなことがあったので、最近、広島県でも、そういうことに取り組んでいまして、中学校等も自主学習ノートというか、何でもいからとにかく、半ページとか1ページ、2ページとか勉強して来るということもやっているところです。
 宿題の提出率というのも、課題がありまして、全員が全員やって来るわけではないので、やっぱり全員が100パーセントやるものだという雰囲気になってこそ、皆がやるという形になると思うので、今、そこを中心に学校に取り組んでいただいている状況です。

○ 樋上教育委員会委員

意見ではなく感想ですけれども、みんな落ち着いているいろいろなことに取り組める姿勢ができてきたと思います。

この間も合唱祭が中学校であり、市長にもぜひ聴いていただきたかったのですが、感動できる合唱祭でした。いろんな方に観に来ていただきたいと思うのですが、4校とも差がないというか、それぞれに良さがあって、聴きごたえのある合唱祭になっていたと思います。それぞれの学校が刺激を受けながら、また変わっていくと思うのですが、いい企画だなと思いました。ああいうところに落ち着きというか、そういうものが表れて学力もまた変わっていくのかなと思います。

○ 明岳市長

皆、声がそろってましたか。

○ 樋上教育委員会委員

そろっていたというよりも、表情もよく、本当に一生懸命歌っていました。びっくりしました。

○ 御堂岡教育委員会教育長

ビデオを撮っていると思いますので、ぜひ市長には、お届けします。

○ 明岳市長

これは教育長が発案したということですよ。

○ 御堂岡教育委員会教育長

そうですね。

私が大柿中学校長だった時にだんだん学校の規模が小さくなってきて、学校の中でやるということよりは、市全体でそういう交流をすることによって、お互い切磋琢磨する場を作るというか、他校の良さがあると思うので、それをしっかり取り入れてということで。子供たちも今回すごくこの発表の場に対して意気込みを感じました。

先生方も本当にてきぱきと動かれて、この合唱祭が年々価値ある大会になってきていると感じています。

○ 明岳市長

中学校には音楽の先生が、必ずいらっしゃるのですか。

○ 御堂岡教育委員会教育長

います。

○ 明岳市長

その先生方にも励みになりますよね。

- 御堂岡教育委員会教育長
 そうですね。
 音楽の先生もそうですが、やっぱり学校全体で取り組むというか、学級対抗でもあるわけです。
 学級担任や生徒が一致団結していいものを作る。そういう中で音楽の先生がすごくいいアドバイスをするなど、そういう役割を果たしていただいて、学校全体でそういう合唱を作り上げていくことができていると思います。
- 三島教育委員会教育長職務代理者
 前段階として文化祭があります。文化祭の合唱コンクールの優勝クラスが合唱祭に出る。ですから学校全体の取組ということになりますね。
- 明岳市長
 ほかにないですか。柳川委員はいかがですか。
- 柳川教育委員会委員
 小学生の学力が全体的に低いですが、何か原因などありますか。
- 畠藤学校教育課長
 原因というのが、これと言いつけるものはないのですが、今、学校に対して指導していることとしましては、小学校はどうしても学級担任に任せがちになるということで、担任の力量が学力を左右することがあります。ですので、学校全体で組織的に学力向上に対して取り組むようにすることで、改めて取り組みを強化するよう指導しているところでございます。
- 明岳市長
 よろしいですか、柳川委員。
- 柳川教育委員会委員
 問題ないです。
- 御堂岡教育委員会教育長
 全国と比べた時には上のレベルにあるのですが、広島県全体が近年ずっと伸びてきて、10年前、20年前に比べて、はるかにいいレベルにあります。
 特に小学校が全国でもトップレベルの学力であると。また中学校はだいたい、中位レベルということになっていますので、なかなか小学校も広島県のスピードに追いついていかないということもあると思います。だから全国と比べた場合には、そんなに下がっているという状況ではありません。
- 明岳市長
 今井委員、何かありますか。

○ 今井教育委員会委員

この前、学校へ行こう週間で、数校だけ見せていただきました。小学生も落ち着いて先生のほうをちゃんと向いたり、発表する子のほうを見たりして、聴いているなということを感じて、環境がとてもいいな、勉強する環境になっているなと思いました。

特に英語が3、4年生から、今年から始まったのですが、たまたま4年生の英語の授業を見に行ったのですけれども、もうみんなが生き生きして、意気込みがすごかったので、こちらも楽しい気分で見させていただきました。

あと、パソコンも今すごく進んでいます。たまたま見させてもらったのが、小学6年生が修学旅行に行ったものを、パワーポイントで自分たちでアルバムを作ろうということで、挑戦をしていました。やはり、小さい時から触っているということもあるし、先生たちの指導の下、いろいろなことができるようになっていて、パパッとやるんですね、先生に聞かずに。すごく自分たちのものになっているなと感じました。

○ 明岳市長

素晴らしいですね。

○ 樋上教育委員会委員

余談ですが、県内の女性教育委員の研修会が江田島市であったんですよ。

その時、市長にお話ししていただいたのですが、その中で、皆さん、江田島市ってすごいねと言われていました。何がすごいって、子供たちもすごいし、施設もすごい、環境がとてもいい、能美中学校の授業を見せてもらって、とても気持ちがよい視察でした。市長と教育長の話の中から江田島の教育が読み取れたと感じました。

ああいうふうにアピールしていただくといいと思ったし、そのことが、学校へも影響はあるんだなと思いました。

明るい雰囲気教育委員会の中で皆さん一丸となって学校で指導していただいているというのは、とてもいいことだなと思います。

男性教育委員の方も御一緒に見ていただけたら、本当に良かったなと思いますし、皆さんに喜んでいただいたし、ものすごい研修になりましたという声もいただきました。県教育委員会からもよかったという声があったんですよ。

○ 御堂岡教育委員会教育長

県教育委員会のほうからも、非常にありがとうございます、よかったですよと言っていました。

○ 樋上教育委員会委員

そういうことを保護者とか、議会とか、そういう時にも話をされたらよろしいのではないかと思います。

○ 明岳市長

この前、広島でNHK杯国際フィギュアスケート競技大会がありまして、オリーブ冠をまた提供させてもらいましたが、ちゃんとアナウンスしてくれるんですよ。

メダルをかけて、NHKの会長がトロフィーを渡して、その後、「江田島市で育てられたオリーブで作られたオリーブ冠を国際アイス連盟代表の方が渡されます。」と言ってくれるんです。「江田島市が作った。」と言ったら会場が「うおー。」と言ってくれるんですよ。あれはうれしかったです。多分放送もされたんじゃないかな。あれで江田島市をPRできたかなと思います。写真も中国新聞の一面に出ましたが、非常にきれいですね。

どうしても、オリンピックに使ってもらいたいと思うんですけども、ハードルが高いですね、コツコツやっています。

それでは、ただ今の協議事項の学力、体力についてないようですので、次の議事に入らせていただきます。

続いて、協議第2号の「大柿高等学校に対する取組について」です。

内容につきまして、教育長から説明を願いたいと思います。

○ 御堂岡教育委員会教育長

大柿高校の取組につきましては、魅力化コーディネーターを採用していただきまして、今、精力的に動いています。

市内の中学校には全て説明をして、昨日、呉の中学校に行って話をしに行ったところです。数も、また後で話題になろうかと思えますけども、取組としては順調にいつていると思っています。それでは、課長からお願いします。

○ 畠藤学校教育課長

はい、それでは説明いたします。

資料5の8ページから御覧ください。

大柿高等学校に対する取組について説明いたします。8ページにつきましては市としての取組を掲載しています。

「1 財政的な支援」としまして、三つの事業を実施しております。大柿高校活性化事業では、魅力ある学校づくりへの支援として50万円、中高連携の強化として中学校に20万円、通学費補助として、バス定期代を2分の1から3分の2の補助費の増額を行いました。学校が実施する江田島市を学ぶ地域学活動への補助も実施をしています。

二つ目の事業、大柿高校魅力化事業では、公営塾や寮費の補助をしています。公営塾では、講師を1名から2名に増やすなど、こちらも増額をさせていただきました。

次に、「2 大柿高等学校魅力化コーディネーターの配置」で、先ほど教育長からも話がありましたとおり、大柿高等学校と市内の中学校及び市内外の各教育機関をつなぎ、魅力ある学校づくりを支援する「魅力化コーディネーター」を、平成30年10月5日に1名配置をいたしました。主な活動としましては、大柿高等学校のPR活動に関する業務、大柿高等学校が実施する生徒募集に関する業務、インターネットツール等を活用した情報発信に関する業務を行っています。

「3 中高連携の取組」の内容としましては、こちらの表にお示しをしたとおりでございます。

続いて、9ページをご覧ください。こちらは広島県教育委員会が作成した資料です。大柿高校が、当該「対応方針」に示す条件を満たすにはということでございます。

平成30年9月10日時点の生徒数は1年生が25人、2年生が27人ということで、こちらは今も変わっていません。ですので、新入生が28人以上入学しますと全校生徒数は、80人以上となりますので、来年度以降、学校は存続し、「基本計画」に基づく取組を継続ということになります。しかし、もし、28人以上入学しなかった場合ですが、取組の成果が表れていると認められる場合、つまり、新入生が今年度入学の25人以上、もしくは全校生徒数が74人以上になれば32年に向けて、取組が継続されるということです。

しかし、新入生が21人以下、全校生徒数が73人以下になった場合は、キャンパス校などの措置がとられるということで説明を受けて、取組を進めているということでございます。

続いて、10ページを御覧ください。こちらは、大柿高校作成の資料です。これは、9月から2か月間、ここ最近の取組についてまとめられています。大柿高校も市内外の中学校の進路説明会に出かけたり、様々なPR活動を行ったりということで、様々な活動が行われています。

続いて、11ページを御覧ください。こちらは、大柿高校魅力化コーディネーターについて現在の活動状況をまとめたものでございます。業務内容としましては、資料を作成したり、資料を活用してプレゼンテーションを実施したりしています。SNSのフェイスブックも始めました。「広島県立大柿高等学校」のアカウントで開設していますので、もし、御覧になられましたら、「いいね」をしていただけたらと思っています。各種会議にも出席をしています。

「2 活動記録」というところがございますように、この1か月、就任から1か月でさまざまなお出かけ、PR活動を行っていただいているという状況でございます。

説明は、以上です。

○ 明岳市長

はい、ありがとうございました。

ただ今の説明に対して、質問等ございましたらよろしく願いいたします。

○ 樋上教育委員会委員

この間、大柿高校にお邪魔させていただいたときに、いろんなことをお聞きして、消防本部の採用試験に受かっている子もいまして、実績が上がっていると思うんです。

結局、自己PRとか、魅力化コーディネーターの配置をしても、子供たちが活動したり、実績を上げていかないと、納得ができないじゃないですか。私は、子供たちの活動について、もっと大柿高校にがんばっていただかねばという思いもしています。

事務局で把握している範囲での、何名くらいの、大柿高校受験というか、意思があるのかということ、把握しておられたら教えていただければと思います。

○ 畠藤学校教育課長

今の希望調査での把握というところで御理解いただけたらと思いますが、現在確認したところでは、中学校3年生は135名おります。その135名中、大柿高校を第一希望としている生徒は、25名程度と聞いています。

- 樋上教育委員会委員
それは、いろんなアピールの効果があったということではないでしょうか。
- 畠藤学校教育課長
それと、第二希望も、これも動く可能性もありますので、何とも言えませんが、10名程度、第二希望がいて聞いています。
- 樋上教育委員会委員
よそから回ってきた子もいるのですか。
- 畠藤学校教育課長
今聞いているのは、呉市内から1名、そして、広島市内からも1名。10月末の段階でございませけれども、どちらも必ず受けたいということを行っていると言っています。
- 樋上教育委員会委員
動きが見えなかったり、何をしているんだろうというような感じがあったりするので、広商み
たいによその学校が江田島市をPRしてくれているくらいの、ああいうような動きがあればうれ
しいなと思います。
- 明岳市長
でも、いい数字ですね。
1位希望は25名ですか。今のところはいいですね。だんだん良くなっているのですね。
そのほかありませんか。今井委員。
- 今井教育委員会委員
呉市からうちに希望されたのは、コーディネーターの方が行かれて、話を聞いてから、1名、
受けたいということになったんですか。
- 畠藤学校教育課長
活動記録にございますとおり、10月11日、就任して1週間も経たないうちに、呉市の中学
校の校長会に出席をいたしました。
そこで、教育長も大柿高校の校長も一緒に行きまして、学校紹介をしたのですが、その中のあ
る1校の中学校から連絡がありまして、もう1回来て説明をしてくださいということで、昨日学
校に行きました。そうすると、担任の先生、保護者、子供、そして校長先生が待っておられて、
話をさせていただいたところ、受験する意思が固まっているということでございます。受験して
くれるのではないかなと思います。
というように、1回全体的にPRをして、そして、先方から来てくださいと言われたのは、そ
の学校と、広島市の学校1校だけですが、それ以外にも魅力化コーディネーターが突撃で
電話をして、昨日は呉市の中学校に5校行っております。
そして今後も、呉市の近隣の学校へ行く予定にしています。広島市の学校へも行くというこ
とで計画を立てております。

○ 明岳市長

今井委員よろしいですか。

そのほかないですか。ないようでしたら、次にいかせていただきまして、協議第3号の「平成31年度新規・拡充事業」につきまして、説明をお願いいたします。

御堂岡教育長お願いいたします。

○ 御堂岡教育委員会教育長

はい。また資料を基に、各課長のほうから説明してもらいたいと思います。来年度以降のことも踏まえながら説明させていただいたらと思います。

まず、学校教育課からお願いします。

○ 島藤学校教育課長

それではまず、私から説明をさせていただきます。

12ページからということになります。こちらは教育委員会で検討しまして、現在、財政課に要求をした段階ですので、教育委員会としての思い、事務局の思いということで聞いていただけたらと思います。では、学校教育課から説明をいたします。

12ページは、来年度、江田島市教育委員会として行いたいと考えている全体像、主要事業をお示ししているところでございます。新規、拡充、それぞれお示ししたということでございます。

続いて、13ページから、こちらが学校教育課として考えているもの、四つの事業を挙げています。

まず一つ目は、13ページの「大柿高等学校サポート事業」でございます。これまでの事業を統合整理しまして、少し拡充をしたというところでございます。一番下の施策のイメージを御覧いただけたらと思います。これまで三つの事業を実施しておりましたところを、二つに整理しています。

一つが大柿高等学校活性化補助金です。これは大柿高校の教育内容の更なる充実に寄与するための補助をしたいと考えました。まず、部活動指導者招聘経費補助ということですが、部活動に外部指導者を招聘しまして、部活動を活性化したいと考えています。続いて二つ目、英語検定の費用の助成でございます。こちらは中学校では既に実施済ですが、大柿高校へも英検の費用の助成を行い、学力の向上を図りたいと考えています。

二つ目の補助金は、大柿高等学校魅力化補助金としました。通学や塾、寮、そして修学旅行などの補助を魅力化補助金と整理をいたしました。台湾への修学旅行が計画されているということでございます。

続いて、14ページでございます。二つ目は「業務改善「働き方改革」事業」です。教職員が高いモチベーションを保ちながら、子どもと向き合う時間を確保するという狙いを持って、来年度新規の事業を立てています。したいこととしては二つございまして、月2回の環境整備業務員の配置と、留守番電話機能の付いた電話の設置を考えています。

続いて、15ページを御覧ください。三つ目は「切串小学校校舎大規模改修工事事業」でございます。今年度設計を実施したところでございます。来年度は、校舎の改修工事を実施したいと考えています。

続いて、16ページを御覧ください。四つ目は「江田島小学校プール整備事業」を新規事業として挙げています。現在の江田島小学校プールは、昭和45年に建築以来48年を経過しておりまして、経年劣化が進んでおります。修繕費も年々増加しているということもございますので、子供の体育の授業の充実と、市民がいつでも気軽にスポーツに取り組むことのできる環境づくりを考え、江田島小学校プールと、大柿にございます、大原のプールを解体しまして、新たに江田島市の市民プールとして整備したいと考えています。

今年度、高田にございます、高田プールを廃止する予定としておりまして、1小学校1プールの設置をするという考え方で、整備をし、教育環境の充実を図ってまいりたいと考えています。

学校教育課からの説明は以上です。

○ 御堂岡教育委員会教育長

はい。それでは生涯学習課からお願いします。

○ 問可生涯学習課長兼江田島図書館長兼能美図書館長

生涯学習課の新規・拡充事業ですが、2点ほどあります。

17ページ、18ページで、新規事業が2点でございます。17ページから説明いたします。新規事業といたしまして、「まなびすとえたじま事業」ということでございます。

これまで生涯学習課ではいろいろイベント等を開催しております。それぞれイベントごとにスタンプラリー等をしておる状況でした。それで、新しくパスポートというものを作りまして、全ての生涯学習課に関するイベントに共通したスタンプラリーをしたいということで、一年間を通して、パスポートをどの事業でも、どのイベントでも使えるようにしたいということが主な内容でございます。来年度、こういう目的で、予算計上をしたいと考えております。

続きまして、18ページでございます。「図書館活用推進事業」ということで新規事業を考えています。

これは、ねらいとしましては、少子高齢化の中、図書館の利用率、貸出し冊数等もなかなか伸び悩んでおりますので、その利用率を上げていこうということでございます。

まず、窓口を市民センターなどへ拡充して、返却や、貸出しを行うことを考えています。

また、図書館に設置されているトイレ、照明等も老朽化していますので、そういうところを、トイレを洋式化したり、照明をLED化することを考えています。

来年度、これを予算計上させていただければと思っています。内容は、窓口で使う運搬用品などの購入費、あとは、工事の実施設計費などを要求したいと考えています。

以上です。

○ 御堂岡教育委員会教育長

続いて、西原館長、お願いします。

○ 西原大柿自然環境体験学習交流館長

はい。大柿自然環境体験学習交流館、以後、さとうみ科学館と呼ばせていただきますが、継続拡充事業について、説明させていただきます。資料の19ページを御覧ください。さとうみ科学館「海と知の拠点構想」についてでございます。

この事業は、今年度からスタートさせた事業で、自然史博物館並びに理科センターの役割を担うさとうみ科学館を中核施設とした、海と知のネットワークを構築しながら、「海辺の自然について学ぶなら江田島市へ」という認知度を高めて、人が集い、交流し、学び、楽しむことができる、「海」を活用した知の拠点としての整備と事業の充実を図ることを目標とした事業でございます。内容といたしましては、二つございます。

まず、一つ目の、館リニューアル整備事業についてですが、「新築」を整備方針とした、体験型の学習を実施していくための環境を充実させる施設整備の事業でございます。

今年度、関係部局と連携を図りながら施設整備に関する基本構想、基本計画の策定を進めているところでございます。その計画を基に、来年度、基本設計・実施設計の業務委託。再来年度に新築工事を行い、新元号3年度にはリニューアルオープンを計画しています。

また、二つ目の「資料整備事業」についてですが、これは館リニューアルを見据えた準備事業として位置付け、里海学習推進事業の中で進めているものでございます。海辺の自然に関する図書や、研究資料、海産生物の教本や、画像や動画等の館収蔵の資料の公開、活用していくための資料の収集及び整備という事業でございます。来年度、平成31年度は海産生物の標本を中心とした館収蔵資料の整備及びデータ化を行うことを計画しています。

これらのことを踏まえ、平成31年度の概算事業費として館リニューアル整備事業に関しては、基本設計・実施設計業務委託料等の予算を計上していきたいと考えています。

最後に、新元号4年4月に、館設置20周年を迎えますことから、新元号4月にはリニューアルオープン1周年、館設置20周年を迎えるような、そういう事業ができるように計画を進めてまいりたいと考えています。

以上で、さとうみ科学館分の説明を終わります。

○ 明岳市長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの3人の課長から説明がありました報告につきまして、御質問等ありましたらお願いします。

ないですか。

働き方改革で学校の先生の時間を確保するという事業が、これまでもありましたよね。

○ 畠藤学校教育課長

はい。校務支援システムを入れさせていただいて、教職員の通知表を作成する業務の時間を削減ということで、導入させていただいたところ、勤務時間外の時間数が減ったということで、平成28年、29年、30年と3か年で、年々減少はしております。

ようやくシステムに慣れたところで、教職員からは入れていただいて本当に助かったという声が今になって出てきております。

慣れるまでは、難しいという声は上がるのですが、慣れたら良かったということです。特に、年度末に指導要録というのを作成します。1年間の記録をまとめて次年度につなげるという事務があるのですが、それがすごくスムーズにできるということで、非常に感謝されています。

- 樋上教育委員会委員
パソコン等が入ってきてから、環境が昔とは変わってきています。外の環境整備は、どうしても機械ではできないことですよね。今の先生には時間がないのだと思いますので、用務員さんを委託していただければ本当にありがたいですけど、2名では少ないですよね。老人会か何かに安く委託できないのですかね。
- 畠藤学校教育課長
これが安くできるように考えた結果となります。月2回来ていただくということで、各校につき2回だけでいいので来ていただいて、121万円の予算で抑えたということです。
- 樋上教育委員会委員
121万円ですか。
- 畠藤学校教育課長
はい。
- 樋上教育委員会委員
これはシルバー人材センターですか。
- 畠藤学校教育課長
はい。シルバー人材センターに委託することを想定しています。
- 樋上教育委員会委員
安くて綺麗になる方法を考えないといけませんね。老人会は上手ですよ。できれば今みたいにさせていただくとありがたいですけど、これは継続してお願いしたいと思います。
- 明岳市長
保護者が、集まって草取りはしてくれないのでしょうか。
- 畠藤学校教育課長
年に1回くらいはあるのですが、日々の花植えとか、草取り、それとちょっとした修繕なんですけれども、ベランダのさび取りとか、そういったものを全て業者に頼まないといけない状況になってきています。そういった部分を委託することで、すぐできるというか、安全、安心な環境になるのではないかと考えています。
- 御堂岡教育委員会教育長
昔みたいに子供の数が多かったら、当然保護者の数も多いわけで、そういうときには1日夏休みを使って、すごくきれいになるんです。
子供たちを使っても、大した力にならないですから、数がいれば、あっという間にできるんですが、どんどん学校が小規模化してきて、先生の数も減って、非常にそういった管理面では、大変な状況になっていることは事実でございます。
先生や生徒もやらないといけないと、そのところで業者にある程度委託するということの中で、最低限、月2回というのは、そういう数字で出てきているのかなということで考えています。

- 明岳市長
そのほかないですか。
柳川委員どうぞ。
- 柳川教育委員会委員
留守番電話の設置ということですが、これは、どういうものでしょうか。
- 畠藤学校教育課長
はい。留守番電話を設置するというので、夜、勤務時間が終了したら、それを設定するということになります。まずは、それを設置するというので「勤務時間が終了したんだな。」という保護者や地域の方々の理解が深まるかなと思います。今まで、学校の教職員というのは、勤務時間という意識が非常に薄かったというところがあります。
そして、教職員にとってもその意識付けができるのではないかと思いますし、さらに、一番大切なのは対応の時間が減るかなと思っています。電話が掛かれば、それに対して対応していくということで、教材研究などの、いわゆる子供に向き合う時間が増えるのではないかと考え、留守番電話の設置ということを検討いたしました。
- 樋上教育委員会委員
これは、私はとてもいいなと思うのですが、特に録音機能がついているということがいいなと思います。これからはいろんな難しい問題も出てきますので、例えば、ネットで保存ができるようにしてもらったらいいなと思います。
- 明岳市長
これは、何時ごろから設定するように考えているのですか。
- 畠藤学校教育課長
各学校で設定していくことになるのですが、子供の下校時間を考慮して、その30分後くらいということで、5時から5時半くらいかなと考えています。
- 明岳市長
実際、土日にも電話は掛かるのですか。
- 畠藤学校教育課長
少ないとは思いますが。
- 御堂岡教育委員会教育長
私も学校にいたもので実体験がありまして、実は校長で2校やったのですが、1校目の学校で留守番電話機能がありました。7時半くらいになったら、「留守番電話にすればいいじゃないですか」と私が言ったのですが、結局、先生たちは、「電話が掛かってきたらどうするんですか。」とか「電気点いていますよ職員室。」とか言うんです。一大事だったら、それはそこで取ればいい話

で、早く帰っている場合もあるんだから、7時半くらいになったら、電話が掛かってきても、あんまりいい電話は掛かってこない。例えば、もし食事をしてお酒を飲んでいたら、お互いそこで冷静な話もできないし、「もう7時を過ぎたら、電話はつながらないんだな。」というようなことを知らせることも大切なことだと思います。

もう一つは、我々が家庭訪問をするのも、やはり、食事前に行くようにしないと、トラブルのもとになると指導したことがあります。

本当に学校の先生は、24時間学校の先生ですから、土日でも、昔はよく掛かってきていましたけど、今はさすがに少なくはなっています。

○ 明岳市長

工事費が、80万円ということですか。10校で。

○ 畠藤学校教育課長

はい。

○ 樋上教育委員会委員

これと併せて、防犯カメラについてですが、江田島市の店とか、銀行とかそういうところにはありますけど、よく人が通る道路とか、学校とかには、防犯カメラはないですね。

○ 畠藤学校教育課長

はい。江田島市内の小中学校には、防犯カメラは設置していません。

○ 樋上教育委員会委員

この先考えていかなければいけないと思います。

○ 畠藤学校教育課長

学校施設には今、セコムが入っていますので、侵入者がいた場合には、セコムで管理しています。

○ 明岳市長

私も前職で、新しい庁舎を作るときに、防犯カメラを設置することについて、反対意見がありました。「市民を監視するのか、監視カメラか。」というふうに言われて。

ところが事件がありまして、なにもされていない人が自分でわざと転んで、職員に暴力を振るわれたと警察に訴え出たという事案がありました。それでも警察に行って届けを出されると、職員が拘束されるんですよ。だからそういう意味で、防犯カメラを付けたほうが、市民も守れるし職員も守れるということがあると思います。

そのほかよろしいですか。福岡総括場長は、何かありますか。

○ 福岡学校給食共同調理場総括調理場長

懸案といたしましては、給食費の見直しというのが最大の課題になっています。

学校給食というのは、払った給食費で全て賄わなければいけないのですが、合併以来、全然手を付けていない状況でございます。現在、試算を内部では若干協議している状況でございます。

- 明岳市長
給食費は割と低い位置にあるのですか。
- 福岡学校給食共同調理場総括調理場長
県内では低いです。
小学校は195円。その次点というのが世羅町で、230円です。少なくとも世羅町並みにはしたいと思っています。
- 明岳市長
ちなみに中学校はいくらですか。
- 福岡学校給食共同調理場総括調理場長
中学校は235円です。
- 明岳市長
これも県内で一番低いのですか。
- 福岡学校給食共同調理場総括調理場長
低いです。
やはり世羅町が次なので、世羅町は260円だったと思います。
- 明岳市長
子育てにやさしい町ですね。
- 福岡学校給食共同調理場総括調理場長
1,000万円くらい毎年、一般財源から投入しています。
- 明岳市長
では、少し上げても、県内1安い給食費だけ頂いているんですよと言ったら、今の、働き方改革で工事請負費などもつけられるということですね。だんだん、税収も3,000万円、4,000万円減っていますからね。だから、全体のことを考えると、やはり何かを削っていかないと、なかなか難しいですよ。
わかりました。ありがとうございました。
業務委託等は考えていますか。
- 福岡学校給食共同調理場総括調理場長
広島市が、五日市のほうで、完全民営化した調理場を昨年度から運営しています。完全民営化か、PFIか、指定管理か、そういったことを踏まえながら、今、資料を収集しながら検討しています。

- 明岳市長
どういふ方向がいいか、今、直営ですから、比較検討して江田島市としてはこういうふうにしたいたいということを考えてください。
- 福岡学校給食共同調理場総括調理場長
呉市も直営もあれば、委託もありますので、情報収集しながら進めていきます。
- 明岳市長
ありがとうございました。
- 御堂岡教育委員会教育長
今、給食で外部委託も踏まえながら、いろんなことを検討しており、二つある調理場を一つにできないかということで、試験的に一つでやってみるところです。
- 福岡学校給食共同調理場総括調理場長
今年の8月30日に、西能美学校給食共同調理場で、市内全域の学校の給食ができないかというのを、試験的にやらせていただきました。
物理的にはできることが分かりましたが、例えば、食器の保管場所がないとか、ターミナルが狭いとか、配食のルートというような課題というのを洗い出してきたというのが現状でございます。
今、それを整理しながら、災害で給食調理場が使えなくなった場合でも、一か所でできないかということ、検討している状態です。
- 明岳市長
それでは次の議事で、その他ということでございます。
その他の項目で、畠藤課長のほうから説明をいただければと思います。
- 畠藤学校教育課長
はい。それでは、「平成30年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題（10月末現在）」についてという1枚資料がございますでしょうか。
件数の関係について説明をさせていただきたいと思ひます。
まず、上の表に、暴力行為、いじめ、不登校の状況について書かれております。こちらで説明をさせていただきます。
この表は、平成26年度から今年度の10月末現在の推移というのをお示ししております。
とりわけ今回は、昨年度、平成29年度と今年度の「いじめ」の項目について説明をさせていただきたいと思ひます。小学校は、平成29年度いじめの件数は、10件ということでございました。
この10件につきましては、からかわれたり、悪口を言われたというものが多くあります。また、叩かれたり、鉛筆を隠されたりというような事案であったということでございます。

それが発覚したのは、保護者からの連絡がそのうち2件、いじめアンケートから分かったのが5件、そして見ていた児童からの訴えが2件、教員が気付いたのが1件となっています。

今年度、平成30年度10月までの件数としましては1件ということになっています。今年度の1件については、遊びを邪魔された5人が一人に対して叩いたり、ボールを投げつけたりして、その子供が精神的な苦痛を受けたというものでございました。

そして、中学校につきましては、昨年度のいじめの件数として上がっておりますのは2件でございます。その2件の内容としては、悪口をいわれた。そしてもう1件が、筆箱を隠されたということでございます。それぞれこれは、いじめアンケートから発覚したということでございました。

そして、今年度、中学校のいじめは3件でございます。1件は悪口を言われたこと、2件目は一人の生徒を二人の生徒が仲間外れにするような行動をしたこと、そしてもう1件は5名の生徒が継続的に1名の生徒に宿題をさせていたということがございました。この1件は1年程度継続しておりまして、保護者からの訴えで発覚したということで、長期間にも及んでおりました。被害生徒のフォロー、そして加害生徒への特別な指導の実施、更には教職員の指導体制につきまして、教育委員会としても指導を行い、継続した取組を実施しているというところでございます。

どの事案も、いったんは解決したととらえておりますけれども、継続した指導が必要であると考えています。

説明としましては、以上です。

○ 明岳市長

ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、質問等ありましたらお願いいたします。

なければ、私から。「その他問題行動」で「窃盗と万引」というのがあるじゃないですか。この7件。これは具体的には、量販店とかスーパーとかそういったところで見つかったんですか。

○ 畠藤学校教育課長

そうですね。最近では、コンビニエンスストアで見つかるということで、防犯カメラに映っていたということで、後から分かるということが多かったように思います。

それと、近所の小売店で物を取ったということを聞いて、遊び半分でつながっていくということがございました。今はそういったことは行われていないということです。

○ 明岳市長

そういったことがあったらきちんと指導をお願いします。

今のいじめの問題については、よろしいですか。

それではもう1点、三高中学校の統廃合について動きがあれば説明していただけますか。

○ 畠藤学校教育課長

はい。三高中学校につきましては、今年度は、説明会は、実施しておりません。最後に行ったのが、昨年度の1月ということでございます。なかなか今年度になって保護者とのアプローチが難しく、できていないというのが現状でございます。そして、9月3日に市長と江田島市議会議長に陳情書が出されたということで、今、議会のほうでもそれを提議されておりますので、それに応じながら、今後説明会を実施していく必要があると思っております。

○ 明岳市長

平成29年の春に、総合教育会議を開いてもらって、三高中学校は能美中学校への統合ということで、仕切り直しをさせてもらって動いています。

このことについては、地元への丁寧な説明をしながら、進めていきたいと思っております。

文化祭などに行っても、やはり大人数の学校と、小規模の学校というのは、ずいぶん活気が違います。せっかくの機会なので友達を多く、切磋琢磨する機会を増やしていきたいなという思いです。

本当に子供のことを考えたらどうなのということを観点に説明会を開催してください。

これは粘り強く、教育委員会として、江田島市として「子供のために考えたらこうなんです。」ということを懇切丁寧に説明をしていくことが大事なんだと思います。また御支援・御協力いただきたいと思います。

何かこのことでありましたらお願いします。

○ 三島教育委員会教育長職務代理者

教育委員会でも第二次答申に沿って進めていくものと考えています。しかしながらなかなか理解が得られない。中にいけば固定観念が付きまとうものです。風穴を開けるようなアプローチ、対策が必要かと思えます。

○ 御堂岡教育委員会教育長

今、アンケートをやって集まったので、これについては、保護者一人一人に通知をしました。この結果につきましては、また説明会で説明しますということにしていますので、これを基に次の説明会をしていきたいと思えます。

そしてもう一つは、教育委員会の方針として、平成31年4月の統合を目標としていますので、そのことについての話に触れていきながら、実際には難しい状況にはなりつつあります。逆に言うと、できないことに対しての行政的な措置は何ができるのかということでもまた説明してまいりたいと思っております。

○ 明岳市長

その他何かございましたらお願いします。

樋上委員大丈夫ですか。

○ 樋上教育委員会委員

さとうみ科学館の話が一つも出なかったので、さとうみ科学館のことについて、市長のお考えをお聞かせいただきたいのですが、さとうみ科学館がリニューアルするというので、市長としては、さとうみ科学館の存在意義とか、これからの市としてのさとうみ科学館の位置付け、どういうさとうみ科学館の在り方をイメージされているのかをお聞かせください。

○ 明岳市長

これは、江田島市にとっての財産だと思っています。大柿町はいいものを作っていたんだなど、正直感動したんですよ。

今、小学5年生を対象にふるさと江田島の海辺を観察する、海を知る、海の生物を知るという事業を実施しています。江田島市ならではの教育ですよ。

特に人材が素晴らしい。館長を含めてね。思いを持って仕事をされているのが伝わってきます。だからこそあそこに行ったら、ある企業は、今から年間100万円ずつ、さとうみ科学館のために寄付していきますと言ってくれて、それくらい熱い気持ちで説明をするから人を感動させるんだろうなと思います。

これをもっといろんな方に知ってもらいたい。

江田島市の教育の一つの大きな柱だと思っています。

それと、自然史博物館が県内にない。江田島市にしかないというのをアピールして、さつき館長が言いましたけれども、海のことならさとうみ科学館に聞け、あるいは、行って勉強してください。そういう全てのものが集約できるような施設にしたいなと思っています。

今から江田島を支える大きな柱で、勉強の場にもなるし、いわゆる交流人口を増やす施設にもなってもらいたいなと思います。

それと今は、カブトガニをつがいで飼育していて、それを研究して、いろいろ発表もしてくれているんですよ。だから、世界に発信しているんです。

2億年前の姿形を今現在に現してくれていて、しかもそれは、海がきれいだからこそ生息できる。そして、雄と雌の成体になるまで、雄は13年、雌は14年かけて脱皮を繰り返して成体になって、子孫の保存のために1年間つがいのままこの瀬戸内海を回る。

素晴らしい物語なんだな。これは本当に、神秘というか奇跡みたいなことだと思うので、それを全国の人に知ってもらえるような施設にしたいなと思っています。

笠岡市にもあるんですけど、そこより本当に素晴らしい環境の中にあるさとうみ科学館を、言葉は大きいかもしれませんが、リピーター率ナンバーワンの教育施設とか、そういうふうになりたいと思っています。そのために頑張っていきたいという思いです。

○ 樋上教育委員会委員

なぜお聞きしたかというのと、今、江田島観光地域づくり「一步」でいろいろ検討をする中で、さとうみ科学館のことが出てこないんですよ。市外の方も多し、若い人も多いの。

○ 明岳市長

「一步」のメンバーがですか。

○ 樋上教育委員会委員

メンバーです。さとうみ科学館の話は出てこない。それを出しても取り上げてくれない。私と館長で出したんですけどね。

どンドン話が進んでいって「一步」の会では何グループもいろんな案が出てきています。その案も疑問があるような案が、いっぱいあります。いい案もあるんですけどね。私は館長とは一緒のグループではなかったんですけどもね。

私は、個人的にはさとうみ科学館を核に据えて、いろんな課が、いろんな意見をそこへ集約すればいいのになと思ったんです。さとうみ科学館だけとか、教育委員会だけが動いてもそれは教育施設だけにしかならないような気がします。もっといろんな課がさとうみ科学館を作るときに、観光を含めた施設になるような考え方にならないのかなとすごく思います。

せっかくのいい施設にリニューアルするんだったら、若者も集える、子供も市外からのリピーターも増える、そういうような施設になるためには、いろんな課の方たちがそこに参加しないと。それぞれの立場で。オーブとの連携もあっていいと思うんですよ。

今、全くそういう話が出ていない。「一步」の会では全く。

いろんな施設を回りましょうという計画はあるのですが、さとうみ科学館まで行きましょうというのはいないんです。交通の便も今のところは悪いですからね。

もったいないと思います。「一步」の会でも、若い人たちに勉強してもらえればと。東京からもすごくいい業者さんがいい勉強会をしてくださるんですけど、なにか空回りをしていると思います。

もう一つ現実味のある企画ができればいいんじゃないかなと思って、お聞きしました。

○ 明岳市長

交流を増やしていく核になるところだと思いますよ。

○ 樋上教育委員会委員

そういった雰囲気はなかったです。

○ 柳川教育委員会委員

この前の教育委員会議でもさとうみ科学館のことにも触れましたけども、サポートの仕方が重要だと思います。江田島市を挙げて、観光も取り入れるというのなら、課のサポート体制をとらないといけません。個々でやってくださいよと言っても、とても無理ですよ。僕は前から思っていたんですけども、課ごとがバラバラなんですよね。「私の仕事じゃない。」とか、「ここまではやりますけど、ここまではできません。」とかいうことがものすごくあると感じますよね。だから、言いにくいですけども、トップダウンで言われたほうがやりやすいし、孤立しないと思います。江田島市を挙げてなんでも取り組むようにしてもらったらもっと良くなると思います。

○ 明岳市長

本当におっしゃること分かります。ありがとうございます。

○ 樋上教育委員会委員

本当に申し上げにくいのですが、いろんな人たちが出される意見が、打ち上げ花火的に、その時は盛り上がるかもしれない、でもそれって続かないでしょうということが結構ありますよね。一つ一つはいい意見なんですよ、本当に。「やればいいじゃん」というのもいっぱいあるんですよ。

業者の方もきちっとまとめて、ある程度、形にすれば、後は私は知りませんよということもあると思いますが、それなら市役所の方でしっかりと、いろんな課が集まって、今のような、さとうみ科学館を活用しながらすればいいものができると思うのですが。

○ 明岳市長

本当におっしゃるとおりで、多分、職員自らがさとうみ科学館を見ていないんじゃないかなと思うんです。だから私もできる限りPRして、誰か来られたら、すぐここから5分で車で行けますよとか、行ってみてくださいと言っているのです。だからあの素晴らしさは、体感しないと分からないし、そういうことをPRすることと、今おっしゃられた御意見は本当に私も常々感じているんです。感じているんですが、ただ、トップダウンばかりでやったら、職員が育たない。やる気がなくなる。皆さんもそうですけど、私もそうですけど、やれと言ったことをやらないんですよ。自分が好きなようにやるのが、人間なんですよね。だけれども、そこを、思いを「こういうことなんですよ」というのを伝えて一緒になって江田島市を良くしようという思いを伝えて、職員の人に育ってもらおうとか、そういう思いを持ってもらうことが、私の役目だと思っているんですが、なかなかこれは時間が掛かると思います。

○ 柳川教育委員会委員

「江田島市の職員が好きだと言われるような職員にならないといけない。」と言っておられましたよ、あまりいないですよ。

この人熱心だなとか、この人についていこうというような人はいないです。

館長ぐらいです。熱く、どこにいても当たってくれると思いますけど。ほかにはいないと思いますよ。

○ 明岳市長

そこが江田島を良くするための鍵だと思うんですよ。

江田島のまちづくりをやっていくのは江田島市の職員しかいないと思うんですよ。

これほどやりがいのある仕事はないんですけど、やりがいある仕事であるという認識をそれぞれの職員が持たなくてはいけないのが、今おっしゃられたとおりなんです。だからそれをどうやって伝えていくかが課題です。

○ 柳川教育委員会委員

江能4町で、旧4町で、まだ孤立しているのを合体するのも、市を挙げて取り組んでいかないといけないと思います。そうでないと寂れて10年後の江田島市はないんじゃないかというくらいの危機感を持っていますよね。

○ 明岳市長

そうですね。柳川さん自身はそう思っている。それを職員が持たないといけないんですけれどもね。そこの危機意識というものを共有しなければいけないんですけれども、これは全て自分

に戻りますから、そういったことを私も伝えていきたいと思うし、怒らなくてもいいことを怒らなくてはいけないし、という部分なんです。そこは非常に難しい、時間が掛かる人づくりなんです。だから本当に、感謝させてもらって、公務員の仕事ほど、本当にやりがいがあって、例えば利益を上げるとかいうことじゃなくて、市民の方が喜んでくれるような仕事をさせてもらえればいいわけですからね。

ただ、規制はありますよ。予算に限りはあるので。その中で熱心に、西原館長のように、人を感動させるような職員になれば、もっと良くなるので、そのことを十分、頑張ってみますので、柳川委員もどんどん職員に言ってほしいんですよ。「こんなことでいいんか、中途半端じゃいけないのじゃ」と、「必死になってやらんにや、江田島市は沈没するで」ということを、言っていただくことによって職員も気付く。

ここは大事だと思います。これは言ってもらわないと。

○ 柳川教育委員会委員

だいぶ脱線しましたが、10年後、20年後に江田島市は無いと思います。呉市だとか、広島市になっていると思う。というくらい人が遅れてますね。

○ 明岳市長

そうですね。危機意識の点が。

ただ、合併してもよくなっていないんですよ。正直。平成の大合併でやったけれども。吸収合併されて良くなったという声は聞きません、呉でもそうです、寂れていますから今。だからそこをどういうふうにしたら、変えられるのか。課題はもう決まっているんですよ、分かっているんですよ。

昨日も「ひと・まち・しごと創生本部会議」というのがあって、江田島市の人口推計で、あと40年くらいしたら8,000人になるとかね、毎年500人以上減っているわけですから、もう10年たったら5,000人減る、20年たったら1万人減るというような状況なんです。だから、そこに危機意識を持って、それぞれ職員がどうやったら改善できるかを検討する会議だったんですけれども。そのへんの認識を今、職員もして、いろんな政策に取り組もうとしているのですが、私は今の人口分析なんかを、もっとわかりやすくして、市民の方にもお知らせしたいなと思っています。

共有しないといけない。市民の方もまちづくりのサービス、行政サービスを受ける立場であると同時に、この江田島市を運営する主権者でもあるわけです。だったらちゃんと、江田島市はこうなりますよ、だから皆で一緒になって明るい江田島市を作っていきましょうというように投げ掛けと言いますか、説明会をしたいなと思っています。

それで今言っているのは、人口構成で高齢化率が、江田島市は43パーセントを超えました。今、日本は28パーセントです。日本の47年後が高齢化率が38パーセントくらいになるんですよ、2065年。ということは、今現在の江田島市は、50年先の日本の姿なんですよ。

だから日本の未来を明るくするための江田島市だということを職員にも言い、だから今頑張らないといけないのだというふうにやっておりますので、叱咤激励をお願いします。柳川委員の責務として。どんどん言ってもらいたいんですよ。

○ 樋上教育委員会委員

さとうみ科学館のことですけれども、どんどん進めていただくのかもしれませんが、民泊の子供たちって、さとうみ科学館を外せないところがあるじゃないですか。ものすごく感動して帰られますので、夏休みには子供たちを連れて帰って帰省した人は、あそこに行きたいとか、そういった声をいつもいただいている、建物が少し古いので、建物がよくなったら、本当にみんなが来ますよね。ただ、今はインスタ映えがするだけの場所を探したりとかするんですよね「一歩」の人たちは。インスタ映えするだけの場所、ほかにもありますよね。倉橋の方がきれいですよね。食べるものも、世羅の方がおいしいかもしれませんよね。食べるものも多くない。かき屋さんだって、かき小屋があるのかないのか分からないときがあるし、みかんもだんだんなくなっている。島のいいところなくなっている中で、さとうみ科学館を生かしながら、オリーブがあたりとか、勉強もできて、人が集える場を作るのに、力を入れてもらいたいなど、私は個人的に思いますが、館長さんはどうですか。

○ 西原大柿自然環境体験学習交流館長

いろいろな御意見ありがとうございます。

このさとうみ科学館のリニューアル事業は、昨年度も少しお話をさせていただいたんですけれども、やはり単純に施設が老朽化したから建物を新しくするという事業ではなくて、本来持っている事業をより効果的に実施していくために、リニューアルしたいという事業でございます。

その中で他課との連携をしながらということも外せない部分ではありますので、今年度スタートというところで、部局間連携の事業を進めたいというお話を各課から集まっていたいてアナウンスをさせていただきました。この段階ではまださとうみ科学館のリニューアルのイメージはお伝えしたんですけれども、具体的にどこまでどうなるかということが分からない段階でございましたので、実際には各課に知っていただくというアナウンスだったんじゃないかなと考えています。

今年度、まずは教育委員会でチームを組んで、しっかり検討したいということで、学校教育課、生涯学習課と連携しながら、これまでの15年、16年の事業の成果、それから事業の概要、そして施設面も含めて、どういう事業をすところ、どういう特色のある施設なのかというのを、まず分析するというところから今年度はスタートしました。そして、その分析を踏まえて、市としての上位計画であったり、関連計画と位置付けをしっかりと、今後の在り方というのを検討しているところでございます。しっかり形としてこうあるべきという基本計画が出来上がった段階で、もう一度、他課との部局間連携ということでアナウンスをさせていただきたいと思っています。

これまでも、いわゆるソフト面では各課との連携をしながら事業を進めておりますので、より効果的に、もっと建物が新しくなると、これまで関わっていなかった課とも、一緒に事業ができるのではないかと考えていますので、これまでの自然史博物館の機能、理科センターの機能、それから、交流機能というところを併せ持つようにしておりますので、いろんな課との連携ができたらと考えています。そういう意味では、教育委員会の皆さんそれぞれが熱い思いを持って、さとうみ科学館はこうあるべきということで議論をしていただいていますので、いいものになればいいなというふうに思っています。

先ほど樋上委員が言われた「一步」に私も参加させていただいて状況を把握させてもらいながらということでございますが、「一步」はどちらかという、それぞれの方々、様々な方が集まっていますので、まずは、こういったコンテンツがあるのかというのを、それぞれの方から出していただくという場なのかなというふうに感じました。そして、その中からより良いものを形にしていくという、戦略として打っていけるものは何かなということを探すというところからだと思いますので、さとうみ科学館の事業も来年度には、いよいよ基本計画の実施や、基本設計、実施設計ということになりますので、より形が見えてくるようなものになると思いますから、その段階でまた、様々な方が「じゃあさとうみ科学館はこう使えるんじゃないか」という案が出てくるのではないかと期待していますので、官民合わせてですけれども、しっかりとさとうみ科学館を中心として、様々な自然環境だけではなく、文化的にも、歴史的にも、海を学べる、扱えるという施設にできたらいいなと思っていますので、ぜひ今後とも御協力をよろしくお願いいたします。

○ 明岳市長

ということで、頑張っていきたいと思いますので。

そのほかないでしょうか。なければ本日の会議はこれで終了とさせていただきたいと思います。皆様本当にありがとうございました。司会を事務局のほうに返したいと思います。

○ 矢野総務課長

皆様、本日は、ありがとうございました。

貴重な御意見等を頂きましたので、市長部局と、教育委員会とがしっかり連携して、本市の教育行政に反映、推進させていきたいと思います。

以上をもちまして、「平成30年度第1回江田島市総合教育会議」を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。